

ごみの減量・再資源化に関する市民説明会 概要  
【上野が丘公民館】

1 開催概要

|      |         |                                                       |
|------|---------|-------------------------------------------------------|
| 開催日時 |         | 令和 8 年 7 月 7 日(火) 19:00～20:20                         |
| 開催場所 |         | 上野が丘公民館 多目的ホール                                        |
| 出席者  | 市民      | 38 名                                                  |
|      | 行政(市職員) | 環境部長、<br>ごみ減量企画室 3 名、廃棄物対策課 2 名<br>資源循環型施設建設関連事業課 1 名 |

2 主な質疑応答

| No | 項目      | 質問・意見等                                                                | 回答                                                                                      |
|----|---------|-----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | ごみ袋     | プラマーク付きプラスチック袋は、すぐにいっぱいになってしまうため、60ℓや 70ℓサイズの指定袋を作成する考えはないか。          | 袋の大きさは条例で決まっており、審議会において決定している。貴重な御意見として受け止めたい。なお、嵩張らないように切ったりして細かくすることは問題ないので参考にしていきたい。 |
| 2  | 資源物の出し方 | 新聞紙と広告と一緒に出してよいという理解で良いか。                                             | 一緒に出していただいて問題ない。                                                                        |
| 3  | 資源物の出し方 | 新聞紙や雑がみはビニールひもで縛って出しても良いのか。                                           | ビニールひもで縛って出していただいて問題ない。                                                                 |
| 4  | 周知方法    | 大変勉強になったが、地域に帰って話しをしてもなかなか伝わらないので、大勢の方に周知が行き届くよう啓発手段を工夫するなどしてほしい。     | 周知は行政としても大きな課題と思っているが、あらゆる情報手段を使用し周知に努めている。SNS や紙文書も使って今後も努力してまいりたい。                    |
| 5  | 資源物排出量  | 燃やせるごみの排出量の少なさがトップクラスと聞き皆さんの努力の成果が出ていると感じたが、プラマーク付きプラスチックの排出量の傾向はどうか。 | プラマーク付きプラスチックは、近年、2,300 トン/年前後で推移している。人口減少の中で排出量は減少していないので、相対的には増えている傾向にある。             |

|   |            |                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                          |
|---|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6 | 周知方法       | ごみの減量や出し方は一人一人の自覚が大切であり、そのためには周知が必要と考える。本日の説明資料はホームページで閲覧できるのか。                               | 現在、ホームページでも見られるよう準備を進めており、できるだけ早い段階で対応したい。(令和 8 年 7 月 8 日 ホームページへ掲載済)                                                                                                                                                                    |
| 7 | 資源物回収      | スーパーでも段ボールなどの資源物回収をしているが、その回収量は市のデータにも反映されているか。                                               | スーパーでの資源物回収は各事業所・各店舗で独自に実施しており把握していないため、資料の数字は自治会の資源物回収とウィークエンドリサイクルの回収量となる。                                                                                                                                                             |
| 8 | 有機物リサイクル施設 | 有機物リサイクル施設の建設は当面見合わせると説明があったが、東御市では生ごみを分別収集して堆肥化しているので、上田市で施設が難しいとなれば東御市へ搬入するといったことは考えていないのか。 | 当該施設は、現在当面の間見合わせとなっているが、建設しない・白紙になったというわけではない。現在は事業全体の精査中であり答えは出ない状況だが、いただいたご意見も含め精査し、方針が決まれば皆様にお知らせさせていただく。                                                                                                                             |
| 9 | 資源循環型施設    | (1) 令和 13 年度稼働予定の資源循環型施設の想定寿命は何年か。<br>(2) 現行施設はどうなるのか。<br>(3) 施設の寿命を決める根拠はあるのか。               | (1) 焼却施設の耐用年数は 20 年から 25 年であるが、資源循環型施設の仕様は、20 年は安全に稼働し、その後 10 年まで運営できるように、最低 30 年稼働する施設としている。<br>(2) 現在の 3 つのクリーンセンターは、新施設が稼働したら全て解体・撤去する。<br>(3) 現行施設の場合、すでに建設から 30 年以上経過し、修繕費も毎年 6～7 億円かかる状況である。また、交換部品もなくなるといった要因などもあり、総合的に判断することとなる。 |

|    |               |                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10 | 資源循環型施設       | 新施設は126トン/日であり、現行施設の半分以上の規模となるが、本当に大丈夫なのか。                                                                            | 施設の規模は国の算定式に基づき算出している。現行施設は平成初期になるが当時は5万トン/年を超えるごみ量があり、人口もごみも増える想定で建設されている。新施設は人口減少、ごみの減量化を考慮して設定しており、現在のごみ量をしっかり焼却できる施設規模となっているため御理解いただきたい。                                                                                                            |
| 11 | 有機物リサイクル施設    | 芳田地籍にある民間の生ごみ堆肥化施設は、複雑な機械もなく優良な堆肥ができていると聞かすが、そのくらいの規模の施設は考えられないのか。                                                    | 芳田地籍の民間施設は事業系の生ごみが対象であり、一般家庭からの生ごみの受入れができない。事業系の生ごみはある程度種類も一定で異物の混入も少ないが、一般家庭からの生ごみは分別の徹底をしても異物が入る可能性が高く、臭気も懸念点である。<br>有機物リサイクル施設建設地周辺の皆様と協議を進めてきた中でも、臭気対策を強く要望されてきた。対策としての脱臭設備等に費用がかかる。生ごみも減少傾向でどの程度の生ごみが収集できるのか減少傾向にある今、規模の算出が難しいこともあり、現在精査している状況である。 |
| 12 | 周知方法<br>自治会加入 | 私の住む自治会は約1,400戸あるが、600戸は自治会に入っておらず、未加入世帯へ出し方のルールを伝えることが難しい。特に30～40歳の若い世代への情報発信が必要と思うが、PTAや学校を通じて、本日の説明会の話などを行う考えはあるか。 | 自治会未加入世帯が増えていることもあり、転入者には自治会へ入ってもらうようお願いしているが、あわせて「さんあ〜る」アプリのチラシを入れて分別についての周知をしている。PTAや学校も要望があれば出向き説明をしたり、外国の方にも外語学校に出向いて説明している。引き続き努力してまいりたい。                                                                                                          |